

(3) 市街地景観ゾーン

●景観要素と特性



商店街



駅前通り



国道236号線



役場庁舎

- ・商店街は、国道の一部と駅前通りに集中しています。駅前通りは歩道整備により、明るい通りとなりました。
- ・公共施設ゾーンは、村の中心にあり、建物と駐車場主体で、村のイメージダウンにつながる景観です。



生垣・庭木



住宅街



公営住宅



工場

- ・国道西側には、古くからの住宅街があり、緑が豊かで落ち着いています。国道東側には新興住宅街があるが、緑が育っていません。
- ・公営住宅は老朽化が進み、建替え時期にきています。
- ・工場は、道路からむき出しで見える部分が多くあります。



自然の森



中央公園



鉄道記念公園



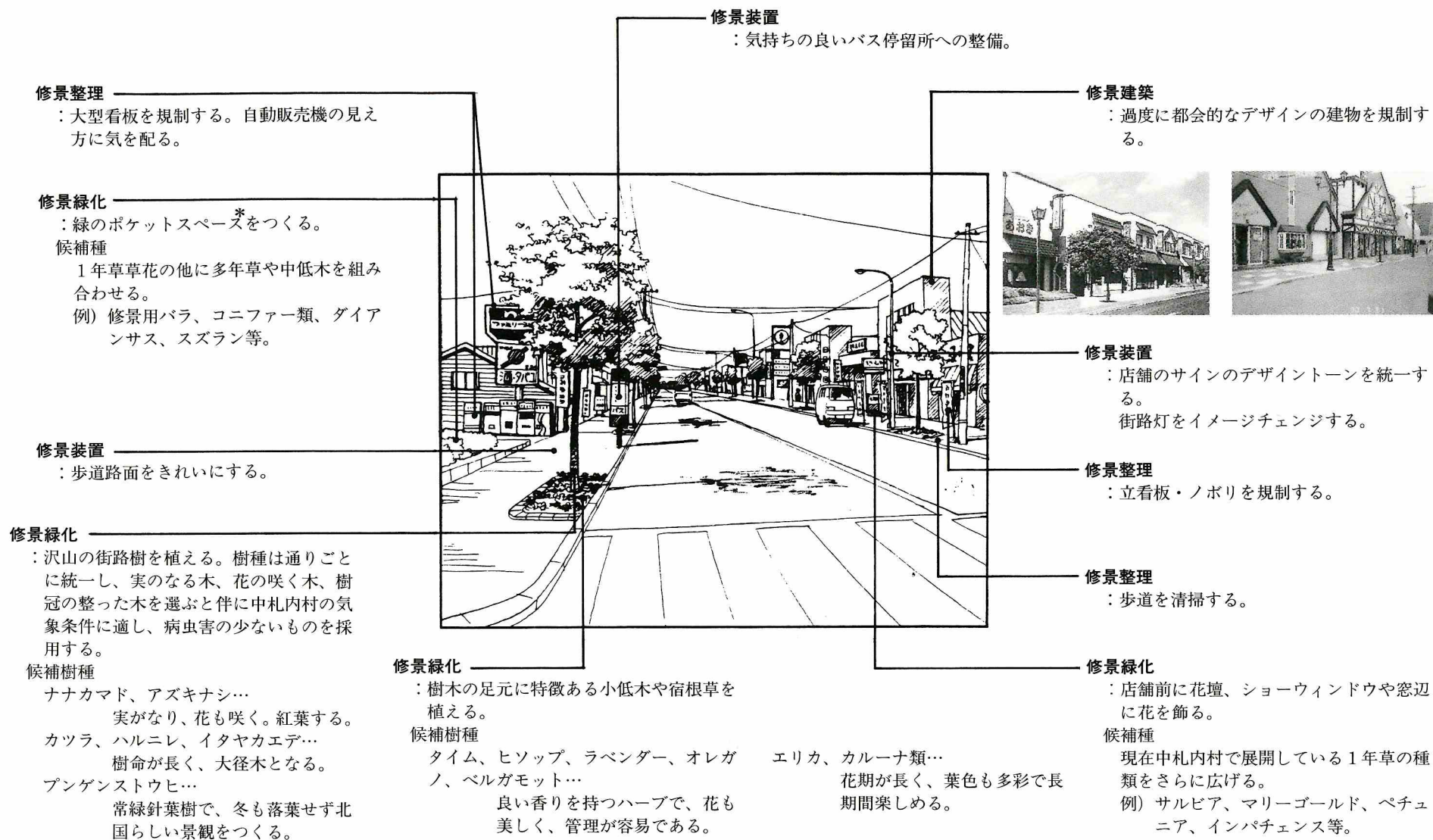
総合運動公園

- ・公園は、規模や内容の違うものがそろっているが、集落の裏にあり、表通りに緑の景観が出ていません。

●景観形成の基本方針

- ①道路整備後の国道には、多くの樹木と草花を植え、街なみを統一する。駅前通りと合わせて、T型のショッピングモール（買物通り）を形づくる。
- ②商店看板や、ファサード（建物の正面）のデザインを統一し、イメージアップを図る。
- ③裏通りや、生活に密着した通りを、うるおいのある通りとして整備する。
- ④公共施設の周辺には、十分な緑化を行う。
- ⑤新興住宅街には、樹木や生垣の植栽を働きかけ、これから建つ住宅には色彩・緑化について誘導する。
- ⑥新しい公営住宅団地は、住宅地景観のリード役として位置付ける。
- ⑦文教ゾーンは、村のイメージを高めるような、緑豊かでのびのびとした施設としたい。
- ⑧ドライブイン跡地は、案内・休憩などのサービス施設として整備し、開拓記念館・花壇を含めた村のシンボルゾーンとしての景観整備が望まれる。
- ⑨むき出しに見える工場の建物は、樹木により隠す。工場建物の色彩を、望ましい色に誘導していく。
- ⑩中央公園は福祉ゾーンの隣接地であることを考慮し、イベント等により、活気のある公園にする。
- ⑪広尾線跡地は、緑あふれる歩行空間とする。

●景観形成のイメージ図（商店街）

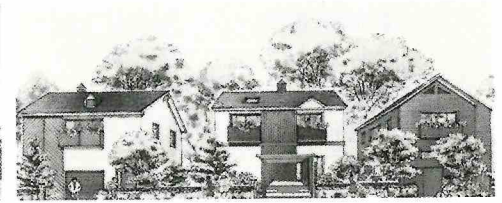


ポケットスペース …………… 歩道や商店街に接する小さな休憩場所。

●景観形成のイメージ図（住宅街）

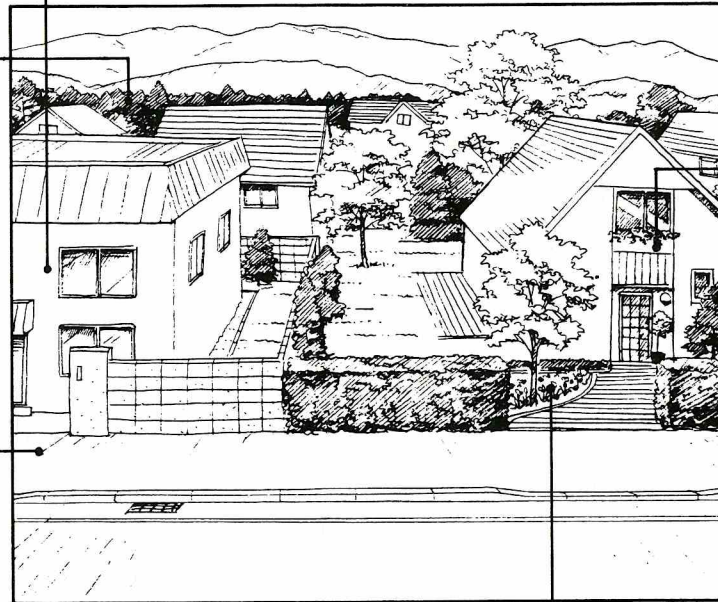
修景建築

：北海道が推進している北方型住宅の考え方にそって、形態・材料・色彩など街なみの調和を配慮して見直す。



修景緑化

：現在ある大木やまとまってある樹林は切らずに保全する。



修景緑化

：窓辺を花で飾る。

修景緑化

：庭には多くの庭木を植える。
樹木は個人の好みで自由に選ぶ。

修景緑化

：外堀は出来るだけ生垣にしたい。樹種は冬季の緑確保のため、イチイを主体にする。

修景整理

：玄関先、歩道を清掃する。

修景緑化

：庭先を花で飾る。

5. 景観形成の手法

景観形成のための、具体的な方法として、次の5つが上げられます。

①修景整理（見苦しいものをなくする）

- ・修景の基本は、きれいなものをつくるより、見苦しいものをなくすることから始まります。
- ・中札内村の自然、田園景観は優れており、清掃や余分なものを整理すると、更に良くなります。
- ・市街地では、景観を損ねているものを取り除くとスッキリし、何が必要かが見えてきます。
- ・個人の住宅や仕事場周りの清掃、路傍の雑草・ゴミ・廃車・廃屋の除去、無秩序に置かれた看板・ノボリ類の撤去や統一の方法があります。



看板が、繁雑している商店街



道路傍に、廃屋や廃車が置かれていることが多い。小屋がなかったらシラカバ林が美しく見えます。



路傍の雑草により、白い雪原がイメージダウンします。



看板がマチマチに置かれると、混乱します。

②修景緑化（外からの見え方や、周囲の景観との調和をはかる）

- ・修景緑化とは、景観を修める目的の植栽であり、外からの見え方や、周囲の景観との調和を考えながら、植栽する方法です。
- ・修景緑化には、ランドマーク植栽・遮へい植栽・並木植栽・屋敷林など、また花壇や窓辺の花飾りがあります。



村の入口にふさわしい並木です。右側にもあれば、もっと村のイメージが上がります。



大きな工場も、樹木で目立たなくなっています。優れた例です。



真っ直ぐな農道を強調するシラカバ並木。数年すると、この地区の目印となります。



住む人のゆとりや、心づかいが感じられます。窓辺やベランダに花が飾られている例もあります。

③修景装置（装置的なものによる修景）

- ・屋外の家具や舗装の仕上げなど、装置的なものにより修景する方法です。
- ・屋外の家具とはモニュメント・サイン・照明灯・フェンス・花壇などで、商店街での景観形成には、このような装置化をすることで、効果のある場合が多くあります。



坂本直行記念館の、フラワーポットと看板。
廻りの風景を引き立てています。



街の中のバス停。
ここでバスを待つのは、つらいもの
がありそうです。

④修景建築（街なみ景観を形成しているのは、一戸一戸の建物であるという認識づくり）

- ・建物の高さ・形・材料・色彩は周囲の景観に沿うように心がける必要があります。



農家の建物群は、統一感が生まれる
ように手を加えると、豊かさが生ま
れます。



自分の建物だけを考えるのではな
く、街なみの中で自分の建物がどう
映るかを意識することが必要です。

⑤修景色彩（修景色彩は個人のものではなく、社会全体の共有物です）

- ・景観を構成する建物・看板・広告塔などの、周囲に影響を与えるものは、個人のものでも景観に責任があるといえます。
- ・地域らしさが自然に抽出されたような色合い、この土地で真価を発揮する色彩の使い方が必要です。

6. 景観と色彩

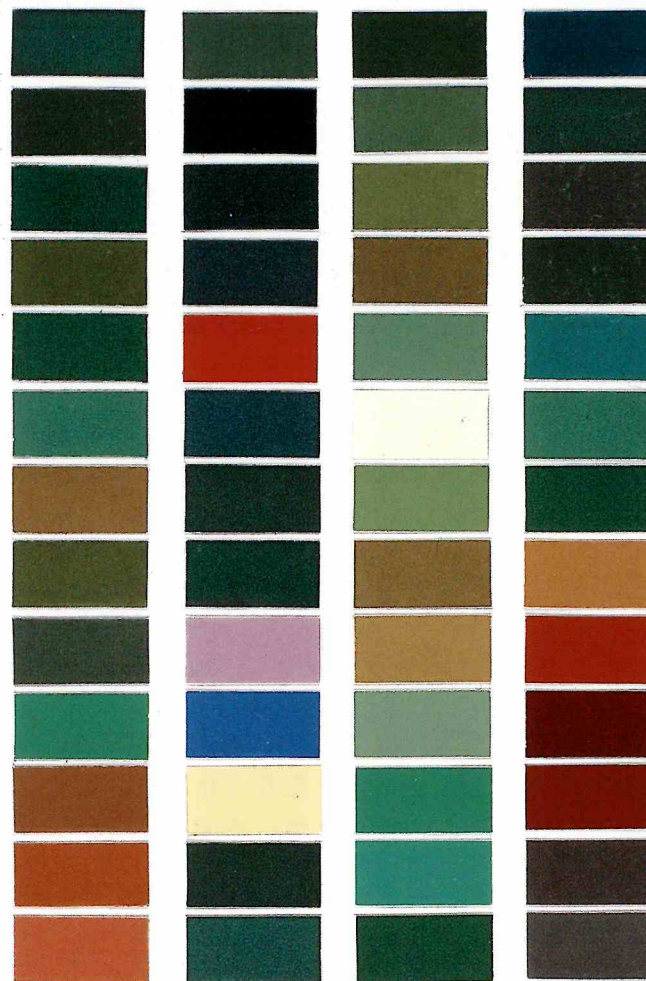
中札内村の景観について、現状をカラー分析し、色彩計画を考えてみます。

●自然景観ゾーンのカラー分析



- ・自然景観ゾーンを構成するものは、森林の緑をベースに畑・牧草地・防風林などがあり、圧倒的に緑が多く、右の色彩パレットのようになります。
- ・建築物は、緑の中の小さな点となり、山岳センターの屋根や壁のように、対比的な使い方がよい。
- ・自然景観の中で使う緑や青系の色は、木々の緑や青空など、自然界の色と類似色であるため、使い方をまちがえると、不自然に見えます。
- ・森林や草原などの自然の緑に溶け込み、安らぎを与える色は、木材や石のような、自然界にある色です。

色 彩 パ レ ッ ト

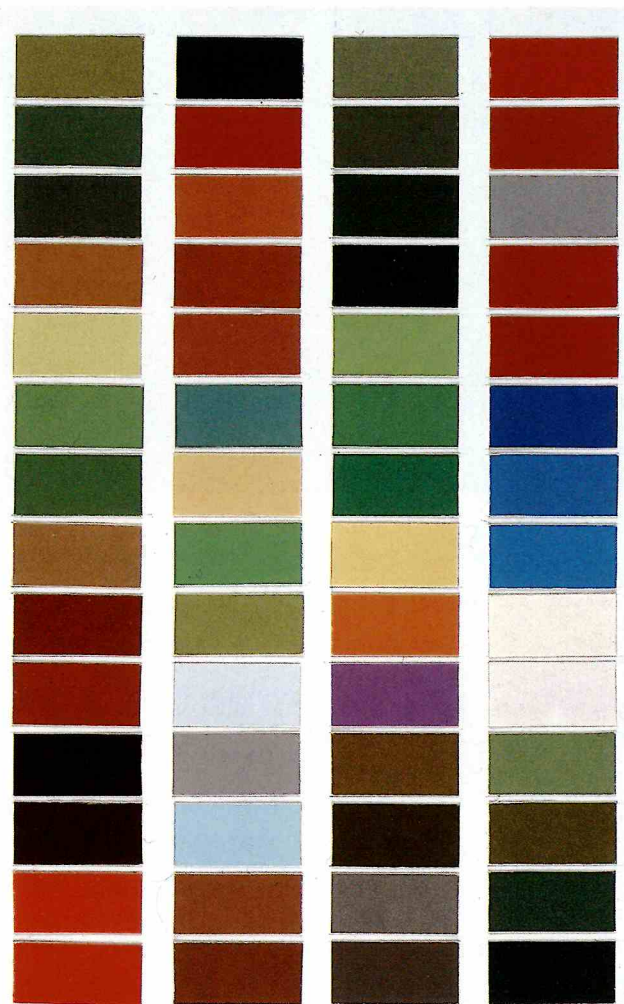


●田園景観ゾーンのカラー分析



- ・田園景観ゾーンを構成するのは、空、作物、土、防風林、農家、倉庫などで、右の色彩パレットのようになります。
- ・農家の建物群が、景観の良否を左右する大きな要因となっています。
- ・屋根の塗装に使うベンガラ（サビ止め塗料の色）は、青空と作物の緑との対比色となり、農村景観にマッチする色として古くから使われています。
- ・外壁の色は、白系のサイディング類を使用しているので全体的に見ると、統一感を乱しています。

色 彩 パ レ ッ ト



●市街地景観ゾーンのカラー分析



- ・市街地景観ゾーンを構成するものは、商店街、住宅街、広告、電柱、道路、街路樹、草花などで、右の色彩パレットのようになります。
- ・色彩により景観を整備する方法としては、商店街の屋根・外壁を統一感のある色にする場合と、街路樹等の緑を使う方法が考えられます。
- ・古くからある住宅街は、生け垣や樹木の量が多く、優れた景観となっている。反面、新興住宅街は緑が少なく、外壁の色が目立ち、地域性をもちません。
- ・草花の色は、自然界の色であり、商店の前に設置する場合、ある程度自由に考えて良いでしょう。

色 彩 パ レ ッ ト



●中札内村の色彩計画

- ・これからの景観形成のための色彩計画について、建物などに使う色として、ふさわしいもの・ふさわしくないものとしてあげてみました。(ポイント色は、調和色に対比する色で、小さな面積で使うことにより、効果が期待できます。窓枠、ドア、門扉、街路灯などに使うことができます。)

ゾ ー ン 区 分	色 区 分	色 彩 パ レ ッ ト
自然景観ゾーン	屋根にふさわしい色 (調和色)	
	壁にふさわしい色 (調和色)	
	ポイント色 (対比色)	
	ふさわしくない色 (不調和色)	
田園景観ゾーン	屋根にふさわしい色 (調和色)	
	壁にふさわしい色 (調和色)	
	ポイント色 (対比色)	
	ふさわしくない色 (不調和色)	
市街地景観ゾーン (商 店 街)	屋根にふさわしい色 (調和色)	
	壁にふさわしい色 (調和色)	
	ポイント色 (対比色)	
	ふさわしくない色 (不調和色)	
市街地景観ゾーン (住 宅 街)	屋根にふさわしい色 (調和色)	
	壁にふさわしい色 (調和色)	
	ポイント色 (対比色)	
	ふさわしくない色 (不調和色)	

7. 景観形成のモデルケーススタディ

景観形成の将来像を、代表的な例として、コンピューターシュミレーションにより作成してみました。

現
況

田園景観



道路景観



市街地景観



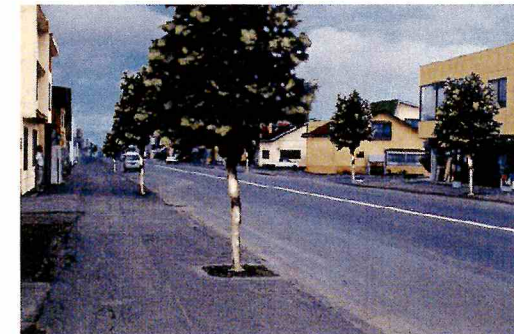
理
想
モ
デ
ル



〔 屋敷林を植える
建物の色を変える
倉庫のデザインを変える 〕



〔 電柱・看板を取り去る
街路樹を植える 〕



〔 電柱・看板を取り去る
街路樹を植える
建物の色を変える 〕

8. 景観形成の推進計画

①役割分担・推進体制

- ・景観づくりは、行政・住民・企業の三者が、各自の役割や責任をにない合わなければなりません。
- ・企業の景観に対する影響力は大きなものがあり、計画への積極的参加を呼びかける必要があります。
- ・次の時代を担う子供達にも、この計画の説明が必要です。

②啓蒙・啓発方策

- ・この計画の意図と内容を、多くの村民に理解してもらい、実施してもらう状況をつくる必要があります。
- ・シンポジウムや勉強会など、景観に関する議論を何度も行なうことが大切です。
- ・村外に対するPRとともに、村外の人々の意見を聞く機会が必要です。
- ・景観に対する意識を高めるため、「中札内〇景」の選定や、写真コンクールなどを行なうことも必要です。

③助成・支援方策

- ・景観づくりには、人手とお金が必要です。住民負担を少なくするための助成・支援方策の検討も必要です。

④規制・誘導方策

- ・景観形成は、一定の約束事づくりであることから、最低限のルールとしての景観条例の制定が必要です。また、同時にデザイン基準の制定も必要です。
- ・景観形成地区は特定の地区とせず、村全域を形成地区とすべきです。